

2019 年度
事業計画書

公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟

目 次

はじめに	1
1. 環境認識	1
2. 基本方針	1
事業別基本方針	3
I. 競技会事業（公益目的事業 1）	6
【2019 年度の計画概要】	6
1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）	7
2. 運営環境の整備（公益目的事業 1.2）	9
3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）	9
4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）	10
II. 普及事業（公益目的事業 2）	11
【2019 年度の計画概要】	11
1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）	12
2. 講習会の開催（公益目的事業 2.2）	13
3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）	14
4. 広報（公益目的事業 2.4）	15
5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）	16
III. 国際交流事業（公益目的事業 3）	17
【2019 年度の計画概要】	17
1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）	18
2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）	18
3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）	20
4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）	20
IV. 公益事業共通	21
【2019 年度の計画概要】	21
V. 収益事業等	22
【2019 年度の計画概要】	22
1. 公認（収益事業等 1）	22
2. 商品販売（収益事業等 2）	23
VI. 法人・管理部門	24
【2019 年度の計画概要】	24
1. 会員・会友	24
2. 組織運営	24
3. 常設委員会	24
① 企画委員会	24
② センター協議委員会	24

はじめに

1. 環境認識

昨年度はジャカルタ／パレンバンで8月に開催された第18回アジア競技大会においてブリッジ競技が初採用されたことが特筆される。国際総合スポーツ大会に初めて参加したブリッジは、実施された40競技中唯一のマインドスポーツとして注目を集めた。テレビや新聞などの各種メディアで取り上げられ、大会期間中は連日報道された。そのおかげでブリッジの知名度はかなり向上したと思われる。この盛り上がりをプレイヤーの新規獲得の増加につなげていきたいところである。次回2022年の杭州大会では、今回は惜しくもならなかったメダル獲得を成し遂げ、ブリッジの存在感をアピールしたい。

また本年度は、JOC加盟団体資格及び国際交流事業への公的支援の活用を継続する。それと同時に、JADAへの加盟、アンチ・ドーピング対応の整備を行い、スポーツとしてのブリッジの環境の整備に取り組んでいく年となる。それらを2026年愛知大会でのブリッジ競技の採用を目指した動きへとつなげていきたい。

若い世代に目を向けると、ユースプレイヤーの活躍が目をひいた。国際競技会では目立った成績こそなかったものの、高松宮杯では複数フライトで中学生を含むユースチームが優勝を飾る快進撃となった。女性のユースプレイヤーの質量が充実し、本年度はAPBF¹ユース選手権のガールズ部門に初めてチームを派遣することとなった。若い世代の新規プレイヤーの獲得においては、小学生から高校生を対象とする橋之介くらの12月の横浜大会の参加者が過去最高の5テーブルに達した。若い男性を主な対象としたゲームマーケットのブリッジ体験ブースの11月の出展では、体験テーブルがほぼ埋まった状態が続く活況を呈した。それらは昨今のブリッジの知名度向上の効果の表れと思われる。

若い世代に明るい材料がある一方で、プレイヤーの高齢化、会員、会友の人数の伸び悩みの傾向があることも否めない。各ブリッジセンター、クラブなどの入門講習会でブリッジを新しく始める参加者も、年齢層のやや高い状況が見受けられる。そういった新しく輪に加わる人たちがスムーズに楽しんでいくためには、従来通りの競技会参加を目指した入門者の育成をしっかりと行っていくことに加えて、競技会にはあまり参加しないライトユーザーとしての活動も1つの選択肢として充実させていくことが求められてきている。

2. 基本方針

昨年度の事業計画では、中長期的な課題を①事業基盤：積極的な収益増加策を試行していく、②普及活動：体験教室に参加する人数を増加させ、それにつれて入門講習会に進む割合も向上させていく、③高齢化対応：学生リーグの活性化策など成果が目に見える具体的な施策で対応していく、とした。いずれの課題も長期継続的に取り組む必要があり、達成度合いも限定的であることから、本年度も引き続き強化策に取り組んでいく。

①事業基盤：本年度はブリッジフェスティバル非開催のため黒字となり、来年度に想定される赤字と合わせれば収支均衡となる見込みである。直接の収益が公認料に依存する体質に変わりはないが、公認料収入は概ね前年並みを見込み安定している。本年度は国際交流事業で世界選手権の開催年度にあたるため経費が増えるが、人件費などの管理費

¹ Asia Pacific Bridge Federation

の削減で補える算段である。国際交流事業の補助金の受給も継続できるため、財務状況は当面は順調に推移するものと思われる。

②普及活動：本年度も幅広い世代を対象とした新しいプレイヤーを増やす活動に注力していく。2017年度から開始した優待券進呈キャンペーンは、昨年度の申請件数が約30%増加した。本年度も人のつながりを活用した普及に努めていく。体験教室、入門講習会の活性化については、講師の話術や魅力、教室の進め方の工夫が、参加者の満足度につながる部分面も大きい。講師のスキルアップのためのサポートを行っていく。ライトユーザー向けの社交型イベントの支援については、参加者が個人のペースでブリッジに継続的に関わっていく仕組み作りに協力していく。

③高齢化対応：若い世代のプレイヤー獲得に向けて、幅広く活動を行っていく。一気に増えるものではなく、長期の積み重ねを大事にしたい。若い世代のプレイヤーは、進学や就職、仕事や家庭など、忙しくなる要素も多い。しばらくブリッジを休んだプレイヤーが復活しやすいような場所や人の輪を用意できるように努めていきたい。

以上を踏まえて、本年度も引き続き業務執行体制の強化、事業の効率化とともに公益に資する事業運営に努め、各事業部の事業計画に沿って計画的に事業を実施する。具体的には次の3点を基本とした活動を行う。

(1) 収益増加

- 本年度の予算編成に関しては、来年度のブリッジフェスティバル開催による赤字を織り込み、それを補って2年度通算で収支均衡予算となるような黒字を目指す。具体的には、昨年度からブリッジフェスティバル開催を除外した2億2千万円の事業予算で、最終的には870万円程度の黒字を見込む。
- 競技会事業においては、会員・会友の高齢化に伴う参加者数の減少を防ぐ競技会運営を検討し、新規プレイヤーの競技会参加定着を図る。初心者の方の競技会参加頻度が上がるような競技会運営を目指す。

(2) 経費効率化

- 本年度は事務局職員の世代交代により、人件費が減少する。5月に新規採用する若手職員、及び中堅職員の育成を行い、事務局の新しい体制の構築を進めていく。マニュアル化や作業効率化を図り、作業の確実性を高めていく。
- 普及事業については、広報活動において、ブリッジの一般的な知名度の向上を目指す。広告掲載から、具体的な体験教室、入門講習会の告知広告を重視する方向への移行を強め、効率的な宣伝活動を行っていく。

(3) 将来への投資

- 若い世代のプレイヤーの獲得のため、橋之介くらぶ、ユースプレイヤーの育成、学生リーグ運営、大学授業の実施、社交型イベント、ゲーム愛好家の活動の支援を行う。
- 講習会やサロンプレイヤーの競技会への移行を後押しするため、首都圏初心者大会への地方参加者の招待、競技未経験者を主な対象とした競技会の開催などを行っていく。
- 新たな形態のブリッジサロン、ブリッジを楽しむ場を拡大し、初級プレイヤーにも対象を拡げた魅力あるプレイ環境を構築していく。

事業別基本方針

I. 競技会事業（公益目的事業 1）

【競技運営】

主催競技会の運営においては、世界各国からも高い評価を受けている大会運営ノウハウを生かして質の高い競技会の提供に努めるとともに、担当ディレクターや参加者からの意見やニーズを収集して問題点や課題の把握に努め、迅速に対応していく。

【ブリッジフェスティバル】

2015年以降ブリッジフェスティバルを隔年開催とした。本年度は非開催年にあたり、横浜スイスチーム、横浜オープンペアのみ2020年2月に開催する。

【競技会の向上】

中長期的な課題として、よりよい競技機会を広く提供するために競技会の内容の見直しと競技会参加者に対するサービス向上を図る。

【JTOS】

競技会運営管理システムの整備・改善に努める。競技会運営ソフト（JTOS）については競技会事業部が継続して保守にあたることとし、使用者のニーズに合わせた新バージョンを随時リリースする。スコア入力システム（ブリッジメイト）の貸与及び導入支援を継続する。

【ディレクター育成】

ディレクター講習会を継続し、競技会運営のレベルアップを図る。これまで隔年に実施してきたナショナルディレクター養成プログラムを見直し、3年ごとに行うこととした。同プログラムは本年度には実施せず、来年度に行う予定とする。

【ブリッジの規則改正】

デュプリケートブリッジの規則が10年ぶりに改正され、日本では2018年3月31日から施行された。本年度はWBFから発行された規則の解説などの日本語化を行い、新規則への対応の周知を行う。

II. 普及事業（公益目的事業 2）

【広報活動】

2018年アジア競技大会のメディア報道による知名度向上を生かし、ブリッジの各現場の参加者の増加を目指す。体験教室、入門講習会の告知活動、ブリッジを紹介する動画の制作とYouTubeへの公開を行う。

【入門講習会】

各センター・クラブと連携し、体験教室、入門講習会の参加者の増加を図る。利用者が増加傾向にある「優待券進呈キャンペーン」の継続、センター・クラブの周辺地域での体験イベントの開催を行っていく。

【初心者競技会参加の支援】

初心者競技の楽しさを感じてもらおうよう、賞品を充実させ初心者競技会への参加を支援する。地方参加者の無償招待をすることで、地方の競技参加層を拡大させる。競技経験のない人を主な対象とした初心者競技会を開催する。

【体験イベント】

ブリッジを知らない人に体験してもらおう場を開催し、ブリッジの宣伝と新規プレイヤーの獲得を行う。国民文化祭、ねんりんピック、ゲームマーケット東京・関西、および霞が関子ども見学デーなどに出展する。

【子どもおよびユース】

橋之介くらぶでは、四谷・横浜・大船の3会場でブリッジの基礎を学ぶ機会を提供する。ユース支援は、講習会や合宿の開催と補助、競技会への誘導、クラブ活動の支援を行い、大学生を中心としたユースプレイヤーを育成する。

【大学でのブリッジ授業の開講】

大学でブリッジ授業を開講し、ブリッジの宣伝とブリッジに理解のある若い世代の確保に努める。東京大学・早稲田大学・青山学院大学・明治大学・大阪大学でそれぞれ実施する。

【若い成人向けの普及活動】

20～30代が中心の普及活動「社交型ブリッジ」及び「ゲーム愛好家向けブリッジ」は参加者の着実な確保と運営方法の向上が図られており、それらの活動を継続的に支援することで、若い世代のブリッジの楽しみかたの選択肢を広げていく。

【普及用コンテンツ】

普及スタンダードシステム(リストA)のリストB版や入門用の練習ハンドを用意し、ブリッジ普及の現場を支援する。

【京阪神の普及活動】

カルチャースクールと連携して一般層の取り込みに力を入れる一方で、若い世代に対しては競技会へ積極的に誘致してレベルアップにつなげる。

【その他各地域の普及活動】

福岡、札幌、仙台及びその他の全国各地域の普及活動に対して、広告宣伝への協力や体験教室の開催の支援を行う。地元と連携し、コンテンツの提供および指導ノウハウの共有などを行う。

III. 国際交流事業（公益目的事業3）

【第52回 APBF 選手権】

2019年6月にシンガポールで開催される第52回 APBF 選手権に、従来のオープン、

ウィメン、シニアに加え新設されたミックスを含む合計4つの代表チームを派遣する。世界選手権のアジア代表枠については、本年度は世界選手権開催国の中国を除いた3か国に与えられることもあり、全てのカテゴリーでの代表権獲得を目指す。また、大会に併せて開催されるAPBF代表者会議に役員を派遣する。

【第44回世界ブリッジチーム選手権】

2019年9月に中国の武漢で開催される第44回世界ブリッジチーム選手権にAPBFの代表権を獲得したチームの派遣を行う。

【APBFユース選手権、世界ユースチーム選手権】

2019年4月にタイのバンコクで開催される第22回APBFユース選手権に、ジュニア、ヤングスター、および初参加のガールズの各代表チームを派遣する。2019年8月にクロアチアのオペティヤで開催される第6回世界ユースオープンブリッジ選手権にジュニア、ヤングスターの代表チームを派遣する。

【国際大会の開催】

2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機に、日本での国際大会開催を目指す。中でもYehBros杯の2021年度の東京開催の実現に向け調整を行っていく。

【2022年アジア大会】

2022年中国の杭州で開催される第19回アジア競技大会の参加に向けた準備を進めていく。日本オリンピック委員会への加盟継続、日本アンチ・ドーピング機構への加盟を行い、国際総合スポーツ競技会に参加していくための環境整備をする。

IV. 収益事業等

① 公認事業（収益事業1）

- 公認事業関連業務は公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターと連携し、より円滑かつ適正な事業運営となるようシステム化、効率化を進めていく。

② 商品販売事業（収益事業2）

- 在庫管理や販売方法など関連業務の見直し及び効率化を図る。

V. 法人・管理部門

- 昨年度に引き続いて「新入会無料キャンペーン」を継続する。2014年度から2016年度の無料キャンペーン利用者は無料期間終了後も高い継続率を維持しているため、新入会者の確保を最優先としそのための施策を実施する。
- 各センター・クラブとの連携の強化、プレイヤーにとってより魅力のある連盟を目指し、事務局員のブリッジ愛好者への対応の向上を図る。事務局業務の改善と職員世代交代の促進に取り組み、マニュアル化を推進する。
- 内部統制力の向上のため、連盟内システムの改善に取り組む。
- 進展する高齢化社会に対応し、弾力性のある事業基盤の構築をめざす。

I. 競技会事業（公益目的事業 1）

【2019 年度の計画概要】

(1) 計画概要

本事業は、当連盟自らが質の高い各種ブリッジ競技会を開催することはもとより、ブリッジセンター／クラブまたは個人が開催するものも含め競技会全般の質を維持し、よりよい競技機会を広く提供することを目的とする。この目的に照らして、(1) 競技会の主催、(2) 競技会運営環境の整備、(3) ディレクターの養成の 3 事業を行う。

主催競技会の回数と内容を見直し、本年度は昨年度に引き続き移管したリジョナル 5 競技会のブリッジセンター主催を継続する。

これまで 22 回にわたり毎年開催していたブリッジフェスティバルは、2015 年 2 月の開催以降隔年開催としている。今年度はブリッジフェスティバルの非開催年度にあたり、2020 年 2 月に横浜スイスチームおよび横浜オープンペアを開催する。

(2) 収支総括	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
経常収益	38,800,000	48,000,000	-9,200,000	
経常費用	62,450,000	90,970,000	-28,520,000	
経常増減	-23,650,000	-42,970,000	19,320,000	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
1.1 競技会の主催	経常収益	38,800,000	48,000,000	-9,200,000	ブリッジフェスティバル
	経常費用	42,570,000	68,620,000	-26,050,000	非開催
	経常増減	-3,770,000	-20,620,000	16,850,000	
1.2 競技会運営環境の整備	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,700,000	1,700,000	0	
	経常増減	-1,700,000	-1,700,000	0	
1.3 ディレクターの養成	経常収益	0	0	0	
	経常費用	290,000	290,000	0	
	経常増減	-290,000	-290,000	0	
1.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	17,890,000	20,360,000	-2,470,000	
	経常増減	-17,890,000	-20,360,000	2,470,000	

【事業別計画】

1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）

(1) 計画概要

① 主催競技会（詳細は次ページ表を参照）

- ・ ナショナル及びリジョナル競技会、日本リーグ、社会人 IMP リーグを開催する。
- ・ リジョナル競技会のセンター移管の追加は、今年度は行わない。移管した 5 競技会については、高い運営レベルを維持するよう支援・監督する。
- ・ 地方からの参加者に対する交通費・宿泊費助成、前年度優勝者参加料割引を継続する。

② ブリッジフェスティバル

- ・ 今年度はブリッジフェスティバルを開催せず、2020 年 2 月に横浜スイスチーム、横浜オープンペアのみを開催する。
- ・ パシフィコシリーズ上位 12 名及び地方在住の上位 4 名までを横浜オープンペアに招待する。
- ・ 次回は 2021 年 2 月の開催を予定する。協賛企業がない場合も開催するが、NEC に替わる協賛企業の獲得を目指す。

③ 消費税率の引き上げに対応した競技会参加料の改定

- ・ 2019 年 10 月に予定されている消費税率の引き上げが行われた場合、連盟主催競技会の参加料をナショナル 5,500 円、リジョナル 4,500 円、セクショナル 3,500 円（いずれも 1 日 2 セッション 1 人あたり）に改定する。

(2) 収支総括

	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
経常収益	38,800,000	48,000,000	-9,200,000	
経常費用	42,570,000	68,620,000	-26,050,000	
経常増減	-3,770,000	-20,620,000	16,850,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
主催競技会	前年度並み	経常収益	36,540,000	34,680,000	1,860,000	
		経常費用	40,380,000	41,620,000	-1,240,000	
		経常増減	-3,840,000	-6,940,000	3,100,000	
ブリッジフェスティバル	拡大	経常収益	2,260,000	13,320,000	-11,060,000	
		経常費用	2,190,000	27,000,000	-24,810,000	
		経常増減	70,000	-13,680,000	13,750,000	

JCBL 主催競技会開催予定表

競技会名	日 程	開催日数	場 所	予定卓数
1) ナショナル競技会(全国大会)				
玉川高島屋 S・C 杯	4 月 13、14 日	2 日	玉川高島屋 S・C	60
全日本地域対抗戦選手権 (関東予選)	5 月 11、12、18、19 日	4 日	四谷 BC	42
藤山杯	6 月 29、30 日	2 日	四谷 BC	48
全日本地域対抗戦選手権 (決勝)	7 月 27、28 日	2 日	グランドホテル 浜松	32
外務大臣杯(予選・決勝)	8 月 31 日、9 月 1 日	2 日	四谷 BC	30
高松宮記念杯	9 月 14、15、16、 21 日	4 日	四谷 BC / 五反田 BS	96
全日本女子ペア選手権 (予選・決勝)	10 月 5、6 日	2 日	四谷 BC	48
高松宮妃記念杯(予選・決勝)	11 月 2、3 日	2 日	四谷 BC	40
ブルーリボン杯	12 月 22 日	1 日	四谷 BC/名古屋 BC/大阪 BC	90
レッドリボン杯	12 月 22 日	1 日	高田馬場 BC/ 大阪 BC	46
朝日新聞社杯	1 月 11、12、13 日	3 日	四谷 BC/五反田 BS /高田馬場 BC/渋谷 BC	150
横浜スイスチーム	2 月 8 日	1 日	パシフィコ横浜	20
横浜オープンペア	2 月 9 日	1 日	パシフィコ横浜	30
2) 日本リーグ				
1 部	前期：4 月・7 月、 後期：12 月・1 月	各 4 日	四谷 BC	16
2 部		各 4 日	四谷 BC	24
3) リジョナル競技会				
柳谷杯	4 月 6、7 日	2 日	四谷 BC/ 高田馬場 BC	100
サントリー杯	4 月 29 日	1 日	四谷 BC/名古屋 BC/大阪 BC	80
井上杯(予選・決勝)	5 月 25、26 日	2 日	四谷 BC	24
井上歌子杯	5 月 26 日	1 日	四谷 BC	32
渡辺杯	3 月 23、24 日	2 日	四谷 BC	44
4) 社会人リーグ				
社会人 IMP リーグ				14

2. 運営環境の整備（公益目的事業 1.2）

(1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。

- ① 競技会運営管理システム
 - ・ 競技会集計ソフト（JTOS）の保守・管理を行い、新形式の競技会に対応する。
 - ・ スコア入力システム（ブリッジメイト）の使用法啓蒙活動、導入支援、貸与を行う。
 - ・ 競技会速報システムを改良し使用を推進する。
- ② 競技会運営環境の整備と維持
 - ・ 競技会の規模に応じた競技会場を確保し、運営設備の維持向上に努める。
- ③ 競技委員会管轄事項
 - ・ 上告審理・裁定、公認コンベンションリストの見直し・改正・公表、ディレクター資格の審議・認定、マスターポイント規則の制定・改正を行う。
- ④ ルール委員会管轄事項
 - ・ 「デュプリケートブリッジの規則」及び競技会運営に関わる諸規則・規定の解釈・通知・公表、上告委員会裁定へのさらなる上告の審理・裁定を行う。

(2) 収支総括	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,700,000	1,700,000	0	
経常増減	-1,700,000	-1,700,000	0	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
競技会運営システム	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,450,000	1,450,000	0	
		経常増減	-1,450,000	-1,450,000	0	
競技委員会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	230,000	230,000	0	
		経常増減	-230,000	-230,000	0	
ルール委員会	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	20,000	20,000	0	
		経常増減	-20,000	-20,000	0	

3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）

(1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。

- ① ディレクター講習会
 - ・ 例年通り、新人ディレクター育成のための初級ディレクター講習会を、東京で1回、地方で1回開催する。

- ほかに、クラブディレクターを対象とする講習会、及びセクショナルディレクターをめざす方を対象とする講習会を各1回開催する。

② ナショナルディレクター養成プログラム

- ナショナルディレクター養成プログラムは3年に1回の実施とし、次回は2020年度を予定する。ナショナルディレクター希望者に対する実地研修は毎年行う。

(2) 収支総括	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	290,000	290,000	0	
経常増減	-290,000	-290,000	0	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
ディレクター講習会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	90,000	90,000	0	
		経常増減	-90,000	-90,000	0	
ナショナルディレクター養成プログラム	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	200,000	200,000	0	
		経常増減	-200,000	-200,000	0	

4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）

(1) 計画概要

競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2) 収支総括	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	17,890,000	20,360,000	-2,470,000	
経常増減	-17,890,000	-20,360,000	2,470,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
管理費 競技会事業部	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	17,890,000	20,360,000	-2,470,000	
		経常増減	-17,890,000	-20,360,000	2,470,000	

II. 普及事業（公益目的事業2）

【2019年度の計画概要】

(1) 計画概要

2019年度は小学生から大学生及び若い成人向けの普及広報活動に積極的に取り組む。近年好調な橋之介くらぶ、中学生、高校生、女性選手の活躍が目立つユースプレイヤーの支援、受講者数が増加している大学授業の実施を行う。若い成人女性の参加が多い社交型イベント、競技会参加が見られるゲーム愛好家向けブリッジを支援する。

競技人口の中心である中高年の新規プレイヤーの獲得により力を入れる。告知広告を積極的に行い、体験教室の参加者数及び入門講習会へ移行する割合を増やす。各センター・クラブと連携をした体験イベントの出展、優待券進呈キャンペーンを継続する。

夜のブリッジ環境を提供してきたプレイヤーズサロンは、サロンが昼間の時間帯へ移行している状況もあり、本年度の実施は見送る。インストラクターズセミナーは情報交換会に内容を改め、普及関係者の指導スキルの向上を図る。

普及事業部全体としては概ね前年並みのコストで展開する。「体験教室や入門講習会の実施支援」、「初心者競技会の支援」は、前年並みの規模で実施する。ブリッジを紹介する動画の制作やコンテンツの整備に取り組む。ブリッジの知名度向上を目的とする広告掲載から体験教室や体験イベントの告知広告へと重点を移行する。

(2) 収支総括	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
経常収益	170,000	120,000	50,000	
経常費用	42,750,000	48,370,000	-5,620,000	
経常増減	-42,580,000	-48,250,000	5,670,000	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
2.1 体験イベントの開催	経常収益	170,000	120,000	50,000	
	経常費用	2,170,000	2,260,000	-90,000	
	経常増減	-2,000,000	-2,140,000	140,000	
2.2 講習会等の開催	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,750,000	2,380,000	-630,000	
	経常増減	-1,750,000	-2,380,000	630,000	
2.3 体験教室・講習会等の実施支援	経常収益	0	0	0	
	経常費用	14,600,000	14,480,000	120,000	
	経常増減	-14,600,000	-14,480,000	-120,000	
2.4 広報	経常収益	0	0	0	
	経常費用	6,300,000	6,550,000	-250,000	
	経常増減	-6,300,000	-6,550,000	250,000	
2.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	17,930,000	22,700,000	-4,770,000	
	経常増減	-17,700,000	-22,700,000	4,770,000	

【事業別計画】

1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）

(1) 計画概要

ブリッジをよく知らない人々を対象に、気軽に参加でき、ブリッジに対する興味・関心を高めてもらうための各種体験イベントを実施する。

① 未経験者用イベント

・出展予定イベントは、国民文化祭、ねんりんピック、霞が関子ども見学デー、関西ジュニアペア基大会、ゲームマーケット東京・関西。

② 競技会イベント

・△100の初心者競技会体験大会を年6回、△5の競技会を年2回開催する。

③ 子ども向け体験イベント（橋之介くらぶイベント）

・体験教室／入門講習会／練習会／競技会を開催し、20名の新入会を目標とする。

(2) 収支総括

	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
経常収益	170,000	120,000	50,000	
経常費用	2,170,000	2,260,000	-90,000	
経常増減	-2,000,000	-2,140,000	140,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
文化・教育関連イベント出展 国民文化祭	前年度並み	経常収益	0	0	0	新潟開催
		経常費用	260,000	260,000	0	
		経常増減	-260,000	-260,000	0	
文化・教育関連イベント出展 ねんりんピック	前年度並み	経常収益	0	0	0	和歌山開催
		経常費用	160,000	160,000	0	
		経常増減	-160,000	-160,000	0	
文化・教育関連イベント出展 その他のイベント	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	680,000	650,000	30,000	
		経常増減	-680,000	-650,000	-30,000	
一般向け体験イベント フェスタ体験教室	従来通り	経常収益	0	0	0	ブリッジフェスティバル 非開催
		経常費用	0	130,000	-130,000	
		経常増減	0	-130,000	130,000	
一般向け体験イベント 初心者大会開催	前年度並み	経常収益	100,000	50,000	50,000	
		経常費用	650,000	640,000	10,000	
		経常増減	-550,000	-590,000	40,000	
子ども向け体験イベント 橋之介くらぶ運営	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	20,000	20,000	0	
		経常増減	-20,000	-20,000	0	
子ども向け体験イベント 橋之介くらぶ体験イベント	前年度並み	経常収益	70,000	70,000	0	
		経常費用	400,000	400,000	0	
		経常増減	-330,000	-330,000	0	

2 講習会の開催（公益目的事業 2.2）

(1) 計画概要

ブリッジに親しみ、理解を深め、技量を向上させるための講習会を開催する。

① インストラクター情報交換会

- ・全国のインストラクターを対象とした普及に関する情報交換会を年1回開催する。

② ユース向け講習会

- ・「ユース育成プロジェクト」の一環としてユース向け講習会を開催し、技術向上支援を行う。ユース代表の選考方法を効率化し費用を削減する。

③ 入門コンテンツの制作

- ・普及スタンダード（リスト A）のリスト B 版を作成する。コンベンションを選ばない汎用性のある入門用の練習ハンドを作成する。

(2) 収支総括	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,750,000	2,380,000	-630,000	
経常増減	-1,750,000	-2,380,000	630,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
ブリッジインストラクター情報交換会	内容変更	経常収益	0	0	0	
		経常費用	130,000	270,000	-140,000	
		経常増減	-130,000	-270,000	140,000	
ユース向け講習会 ユース育成 PJ	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,620,000	1,670,000	-50,000	
		経常増減	-1,620,000	-1,670,000	50,000	
プレイヤーズサロン	休止・中止	経常収益	0	0	0	
		経常費用	0	440,000	-440,000	
		経常増減	0	-440,000	440,000	

3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）

(1) 計画概要

体験教室や講習会等を開催する会員・会友や他の団体等に対して、人的支援、金銭的支援、用具や教材の提供及びノウハウの提供を行う。

① 一般支援

- ・各種体験教室・講習会等は、規定の範囲内で講師及びアシスタント料や交通費等を助成する。体験は要請があれば用具・教材の提供や連盟職員の派遣を行うことがある。入門講習会は原則として1期12回までの助成とする。
- ・体験イベント支援や海外クラブ支援は、原則として申請に応じて助成する。
- ・地方クラブ支援は、地方クラブ・センターのそれぞれの課題に応じた支援を行う。

② 教育現場におけるブリッジ講座支援

- ・東京大学、早稲田大学、大阪大学、青山学院大学、明治大学の5大学で授業を開講する。授業の進め方に工夫を凝らし、これまで培った指導法のさらなる発展を目指すとともに学生の理解度を向上させる。

③ 学校・学生支援

- ・学生クラブの活動支援（部員勧誘活動、クラブ立上げ、用具提供）、学生クラブによる他大学の友人・知人へのPR活動推進支援（費用支給）を行う。
- ・学生リーグ主催の学生選手権への参加費用を助成する。

(2) 収支総括

	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	14,600,000	14,480,000	120,000	
経常増減	-14,600,000	-14,480,000	-120,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
普及活動支援 助成規定・海外ク ラブ支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	体験入門紹介キャン ペーン実施
		経常費用	9,100,000	9,100,000	0	
		経常増減	-9,100,000	-9,100,000	0	
普及活動支援 地方活性化支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	90,000	90,000	0	
		経常増減	-90,000	-90,000	0	
学校講座支援 大学講座 東京大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師：浅井潔
		経常費用	750,000	800,000	-50,000	
		経常増減	-750,000	-800,000	50,000	
学校講座支援 大学講座 早稲田大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師：並木亮
		経常費用	1,460,000	1,460,000	0	
		経常増減	-1,460,000	-1,460,000	0	
学校講座支援 大学講座 大阪大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師：大橋正幸
		経常費用	530,000	530,000	0	
		経常増減	-530,000	-530,000	0	

学校講座支援 大学講座 青山学院大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師：島村京子
		経常費用	1,010,000	1,010,000	0	
		経常増減	-1,010,000	-1,010,000	0	
学校講座支援 大学講座 明治大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師：清水映樹
		経常費用	590,000	450,000	140,000	
		経常増減	-590,000	-450,000	-140,000	
学校・学生の普及 活動支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,070,000	1,040,000	30,000	
		経常増減	-1,070,000	-1,040,000	-30,000	

4. 広報（公益目的事業 2.4）

(1) 計画概要

普及のターゲットごとに最適な広告メディアを選定して PR 活動やプロモーション活動を行う。

① 広報宣伝活動

- ・体験教室、入門講習会開催告知のための首都圏一斉広告を年 2 回実施する。
- ・地方の各センター・クラブ主催の体験教室、入門講習会開催告知のための広告を適宜実施する。
- ・ブリッジのルール、初歩の知識、テクニックを扱ったブリッジ紹介動画を制作し、YouTube やホームページ等で公開する。
- ・メディア広告、地域イベント参加やブリッジ図書寄贈などの PR 活動を行う。
- ・「普及通信」ウェブ版を隔月更新する。印刷版の郵送は終了とする。
- ・体験型イベントに出展し知名度の向上とセンター・クラブの入門講習会の支援を図る。

② プロモーション活動

- ・オンラインのゲーム環境として、BBO に開設した JCBL 専用ルームを充実させる。
- ・若い成人向けの社交型ブリッジの活動「Light Bridge」を支援し、新しいターゲットを対象とした広報活動の活性化と社交的なブリッジの楽しみ方の追求を目指す。

③ 出版物の刊行

- ・ブリッジをテーマにした小説・マンガの制作と出版を行う。

④ ウェブサイト運営

- ・入門用のコンテンツを整理し、わかりやすく見やすい構成に変更する。

⑤ 広報ツール、プロモーショングッズの作成・配付

- ・広報ツールやパンフレットの企画・開発を行う。プロモーショングッズを必要に応じて製作または購入する。

(2) 収支総括	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	6,300,000	6,550,000	-250,000	
経常増減	-6,300,000	-6,550,000	250,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
広報宣伝活動	前年度並み	経常収益	0	0	0	ブリッジ紹介映像作成
		経常費用	5,770,000	6,000,000	-230,000	SKYMARK 機内誌掲
		経常増減	-5,770,000	-6,000,000	230,000	載終了
出版 入門コース教材 作成	前年度並み	経常収益	0	0	0	普及スタンダード、
		経常費用	160,000	160,000	0	練習ハンド作成
		経常増減	-160,000	-160,000	0	
ウェブサイト JCBL ウェブサイト の運営	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	270,000	265,000	5,000	
		経常増減	-270,000	-265,000	-5,000	
ウェブサイト 普及通信の編集 発行	縮小	経常収益	0	0	0	WEB 版は継続
		経常費用	0	25,000	-25,000	印刷版郵送は終了
		経常増減	0	-25,000	25,000	
広報ツールの作 成・配付	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	100,000	100,000	0	
		経常増減	-100,000	-100,000	0	

5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）

(1) 計画概要

- 普及に関わる JCBL 公認資格制度確立のための制度設計
- ブリッジインストラクター登録管理と登録証発行（3月）
- 普及事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2) 収支総括	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	17,930,000	22,700,000	-4,770,000	
経常増減	-17,930,000	-22,700,000	4,770,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
管理費 普及事業部	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	17,930,000	22,700,000	-4,770,000	
		経常増減	-17,930,000	-22,700,000	4,770,000	

III. 国際交流事業（公益目的事業 3）

【2019 年度の計画概要】

(1) 計画概要

ブリッジは世界に多くの競技人口を有していることから、ブリッジを通じた国際交流を図ることは、国際親善・国際相互理解促進にとって有意義である。このため、(1)国際競技会の主催、(2)海外競技会への参加支援及び(3)国際的競技団体との交流の3事業を行う。

(2) 収支総括

	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
経常収益	3,090,000	1,970,000	1,120,000	
経常費用	25,800,000	18,040,000	7,760,000	
経常増減	-22,710,000	-16,070,000	-6,640,000	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
3.1 国際競技会の主催	経常収益	110,000	110,000	0	
	経常費用	0	0	0	
	経常増減	110,000	110,000	0	
3.2 国際競技会への参加費用助成	経常収益	2,980,000	1,860,000	1,120,000	
	経常費用	20,840,000	13,750,000	7,090,000	
	経常増減	-17,860,000	-11,890,000	-5,970,000	
3.3 国際的競技団体との交流	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,180,000	1,230,000	-50,000	
	経常増減	-1,180,000	-1,230,000	50,000	
3.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	3,780,000	3,060,000	720,000	
	経常増減	-3,780,000	-3,060,000	-720,000	

【事業別計画】

1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）

(1) 計画概要

2019 年度は YehBros 杯の日本開催は実施しない。国際大会開催準備金については 2019 年度の積み増しは行わず受取利息のみ計上する。

(2) 収支総括	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
経常収益	110,000	110,000	0	
経常費用	0	0	0	
経常増減	110,000	110,000	0	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
APBF 選手権/コングレス	前年度並み	経常収益	110,000	110,000	0	国際大会開催準備金
		経常費用	0	0	0	受取利息のみ計上
		経常増減	110,000	110,000	0	
Yeh Bros 杯	休止・中止	経常収益	0	0	0	
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	0	0	0	

2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）

(1) 計画概要

① 日本代表選抜

- 日本代表選抜試合を開催し、平成 32 年度に開催されるワールドブリッジゲームズのオープン、ウィメン、ミックス、シニアの各チームを選抜する。遠隔地からの参加者には、交通費と宿泊費を助成する。
- 代表チームの国内競技会参加費及び練習会の費用を助成する。

② 国際競技会派遣

第 52 回 APBF 選手権

6 月 11 日から 20 日にシンガポールで開催される第 52 回 APBF 選手権にメン、ウィメン、ミックス、シニアの各チームの選手、キャプテンの派遣を行う。

第 44 回世界ブリッジチーム選手権

9 月 14 日から 9 月 28 日に中国の武漢で開催される第 44 回世界ブリッジチーム選手権に APBF 代表権を獲得した各チームの選手、キャプテンの派遣を行う。

- 日本代表のユニフォームを作成、代表選手に支給する。

③ 国際競技会派遣（ユース）

本年度は以下の競技会への参加を支援する。

- 4 月 5 日から 11 日にタイのバンコクで開催される第 22 回 APBF ユース選手権にジュニア、ヤングスター（ともにグレードⅠ）、およびガールズ（グレードⅢ）の各チームの選手、キャプテンの派遣を行う。
- 8 月 20 日から 29 日にクロアチアのオペティヤで開催される第 6 回世界ユースオープンブリッジ選手権にジュニア、ヤングスター（ともにグレードⅡ）の各チームの選手、キャプテンの派遣を行う。

(2) 収支総括	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
経常収益	2,980,000	1,860,000	1,120,000	
経常費用	20,840,600	13,750,000	7,090,000	
経常増減	-17,860,000	-11,890,000	-5,970,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
日本代表選抜	前年度並み	経常収益	480,000	360,000	120,000	
		経常費用	1,740,000	1,390,000	350,000	
		経常増減	-1,260,000	-1,030,000	-230,000	
国際競技会派遣 APBF 選手権/アジアカップ	拡大	経常収益	2,500,000	1,500,000	1,000,000	
		経常費用	5,130,000	4,980,000	150,000	
		経常増減	-2,630,000	-3,480,000	850,000	
国際競技会派遣 アジア競技大会 /世界選手権	拡大	経常収益	0	0	0	
		経常費用	7,310,000	2,650,000	4,660,000	
		経常増減	-7,310,000	-2,650,000	-4,660,000	
国際競技会派遣 その他	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	300,000	300,000	0	
		経常増減	-300,000	-300,000	0	
国際競技会派遣 日本代表ユニフォーム	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	700,000	540,000	160,000	
		経常増減	-700,000	-540,000	-160,000	
ユース育成プログラム APBF/コンGRES派遣	拡大	経常収益	0	0	0	
		経常費用	3,210,000	0	3,210,000	
		経常増減	-3,210,000	0	-3,210,000	
ユース育成プログラム 世界選手権派遣	休止・中止	経常収益	0	0	0	
		経常費用	0	1,810,000	-1,810,000	
		経常増減	0	-1,810,000	1,810,000	
ユース育成プログラム 世界選手権/大学選手権	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,850,000	1,480,000	370,000	
		経常増減	-1,850,000	-1,480,000	-370,000	
ユース育成プログラム その他国際 競技会参加支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	600,000	600,000	0	
		経常増減	-600,000	-600,000	0	

3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）

(1) 計画概要

コントラクトブリッジを通じた国際交流を促進するため、本年度は以下の事業を実施する。

① APBF 代表者会議への役員の派遣

- 2019年6月にシンガポールで開催されるAPBF代表者会議に日本からの役員を派遣する。

② 世界同時大会への参加

- 2019年3月から6月にかけて開催される世界同時大会開催に参加協力する。

③ 海外競技会に参加する会員・会友の支援と海外への情報提供・収集

- ACBL との提携の継続・強化：ACBL 競技会の開催予定情報を提供する。
- APBF 加盟国・地域における競技会開催情報を提供する。
- WBF 加盟国・地域における競技会開催情報を提供する。

④ JCBL ウェブサイトの活用

連盟サイトを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連サイトから情報を収集し、会員に提供する。

(2) 収支総括	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,180,000	1,230,000	-50,000	
経常増減	-1,180,000	-1,230,000	50,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
国際的競技団体との交流	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,180,000	1,230,000	-50,000	
		経常増減	-1,180,000	-1,230,000	50,000	

4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）

(1) 計画概要

国際交流事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料などの経費を支出する。

(2) 収支総括	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	3,780,000	3,060,000	720,000	
経常増減	-3,780,000	-3,060,000	-720,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
管理費 国際交流事業部	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	3,780,000	3,060,000	720,000	
		経常増減	-3,780,000	-3,060,000	-720,000	

IV. 公益事業共通

【2019年度の計画概要】

(1) 計画概要

基本財産運用益及び会費収入の 50%を公益事業及び法人会計にそれぞれ繰り入れ、公益事業活動の原資とする。

(2) 収支総括	2019 予算	2018 予算	前年差	備 考
経常収益	17,010,000	17,010,000	0	
経常費用	0	0	0	
経常増減	17,010,000	17,010,000	0	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2019 予算	2018 予算	前年差	備 考
公益事業共通	前年度並み!	経常収益	17,010,000	17,010,000	0	
		経常費用	0	0	0	
		経常増減	17,010,000	17,010,000	0	

V. 収益事業等

【2019年度の計画概要】

(1) 計画概要

公認事業は競技会事業部が、商品販売事業は事務局が担当する。

(2) 収支総括	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
経常収益	151,670,000	154,210,000	-2,540,000	
経常費用	38,380,000	37,850,000	530,000	
経常増減	113,290,000	116,360,000	-3,070,000	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
1 公認	経常収益	131,570,000	134,110,000	-2,540,000	
	経常費用	21,710,000	20,520,000	1,190,000	
	経常増減	109,860,000	113,590,000	-3,730,000	
2 商品販売	経常収益	20,100,000	20,100,000	0	
	経常費用	16,670,000	17,330,000	-660,000	
	経常増減	3,430,000	2,770,000	660,000	

【事業別計画】

1. 公認（収益事業等 1）

(1) 計画概要

「公認クラブとブリッジセンターに関する規則」に定める条件を満たしブリッジの普及に努める団体を公認クラブ及び公認ブリッジセンターとして承認し、その活動を支援するとともに、同規則その他当連盟の定める諸規程に基づいてこれらの団体が開催する競技会を公認競技会として承認する。公認競技会における各競技者の成績は、公式な成績としてマスターポイントを発行し、記録・管理する。

公認事業関連業務の見直しを行い、システム化と効率化を図る。

「センター協議委員会」を中心に公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターとの協議を継続し、公認料制度の見直しを含め、ブリッジの普及と発展に資する公認制度の在り方を検討していく。

収益事業等 1.1 競技会の公認

① クラブ・センター主催競技会の公認

- ・ ナショナル、リジョナル、セクショナル、ローカル、CCG、IMP リーグ、ウィークリーゲームを公認する。
- ・ ナショナル、リジョナル、セクショナル、IMP リーグの公認料率は参加料の 22%を継続する。ブリッジセンターについては平成 30 年度の普及活動実施状況により、平成 31 年度の公認料率を決定する。
- ・ ユースプレイヤーに対する競技会参加料割引を実施する。

② マスターポイントの認定・管理

- ・ マスターポイントの集計・発行及びマスター位の認定を行う。

収益事業等 1.2 ブリッジクラブの公認と育成

① ブリッジクラブの公認と育成

- ・ ブリッジクラブ及びブリッジセンターを公認する。
- ・ 浜松リジョナルにあわせて地方クラブ会議を開催し、地方クラブの意見やニーズの把握に努める。また、会議に出席する地方クラブ代表に対する参加費用の支援を行う。
- ・ 「常設会場運営のためのサービス・ガイドライン」の運用、「ゲーム環境に係わるサービス向上のための意見書」対応、「緊急連絡システム」の運営、AED 設置及びバリアフリー工事支援事業を行う。

② 競技会開催支援

- ・ 地方リジョナル開催時のディレクター派遣費用の支援を行う。

(2) 収支総括	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
経常収益	131,570,000	134,110,000	-2,540,000	
経常費用	21,710,000	20,520,000	1,190,000	
経常増減	109,860,000	113,590,000	-3,730,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
競技会の公認	前年度並み	経常収益	131,570,000	134,110,000	-2,540,000	
		経常費用	20,510,000	19,320,000	1,190,000	
		経常増減	110,720,000	114,790,000	-3,730,000	
コントラクトブリッジクラブの公認と育成	前年度並み	経常収益	0	0	0	AED 購入及びバリアフ
		経常費用	1,200,000	1,200,000	0	リー工事助成
		経常増減	-1,200,000	-1,200,000	0	地方リジョナル支援

2. 商品販売（収益事業等 2）

(1) 計画概要

コントラクトブリッジに関する書籍、競技用具等の販売を行う。在庫管理や販売方法など関連業務の効率化を図る。

(2) 収支総括	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
経常収益	20,100,000	20,100,000	0	
経常費用	16,670,000	17,330,000	-660,000	
経常増減	3,430,000	2,770,000	660,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
商品販売事業	前年度並み	経常収益	20,100,000	20,100,000	0	
		経常費用	16,670,000	17,330,000	-660,000	
		経常増減	3,430,000	2,770,000	660,000	

VI. 法人・管理部門

【2019年度の計画概要】

(1) 計画概要

1. 会員・会友

① 会員・会友向け刊行物の発行

- ・ 会員・会友向けの以下の刊行物を編集・発行する。今後会報発行の頻度を削減することが可能か検討する。

『JCBL BULLETIN』（会報） 隔月刊年6回奇数月1日に発行、部数：7,700部

『JCBL HANDBOOK』 毎年5月1日発行、部数：7,900部

② JCBL ライブラリーの運営

- ・ 通常の新刊書に加えて、欠落していた図書の追加購入を行う。

③ キャンペーン

- ・ 会員・会友向けに以下のキャンペーンを実施する。

入会キャンペーン 前年度に引き続き新規入会者の会費を2020年3月まで無料にする「新入会無料キャンペーン」及び、紹介者にQUOカードを進呈する「紹介キャンペーン」を実施する。

ビギナーズ杯招待 初心者プレイヤーに対する競技会参加奨励策として実施。各ブリッジセンターで開催されるビギナーズ杯に抽選で招待する。

2. 組織運営

- ・ 事務局業務の改善に引き続き取り組む。組織運営体制及び事務局の人員体制の変更を勘案して、業務の効率化を推進する。
- ・ 内部統制力の向上のため、連盟内システムの見直しと改善を図る。

3. 常設委員会

① 企画委員会

- ・ 企画委員会は、毎年度の予算及び事業計画の策定のほか、10年後の連盟及び会員・会友のあり方を想定して事業部ごとの中期計画を策定することと、連盟のさまざまな制度の見直しと改革を使命とする。
- ・ 今年度も、引き続いて連盟の中長期的な財政基盤の充実と、現在のブリッジの競技環境の維持が最大の課題となる。連盟主催・公認競技会の参加者を増やす方策を中心にすえて、連盟の事業運営の安定化をめざす。
- ・ 2019年に予定されている消費税率の引き上げに対応した競技会参加料の見直しを行う。

② センター協議委員会

- ・ センター協議委員会は、競技会と普及活動の拠点であるブリッジセンターと当連盟との協力関係の構築を使命とする。
- ・ 過去数年間で実現した連盟とブリッジセンターとの新しい会計基準の導入、対応の難しいプレイヤーに関するガイドラインの策定、体験教室・入門教室などに関する助成制度の見直しや追加などについて、今年度も引き続き見直しと拡充をはかる。
- ・ 2019年度に予定されている消費税増税にともなう競技会参加料の値上げについては、

ブリッジセンターによって対応が異なることが予想されるが、企画委員会と連携して円滑な導入をめざして調整にあたる。

- 競技会参加者数の維持および新規参加者の増加に向けて、ブリッジセンターとの協議を通じて、さまざまな方策を提案できるようつとめる。

(2) 収支総括	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
経常収益	16,740,000	16,740,000	0	
経常費用	49,360,000	47,370,000	1,990,000	
経常増減	-32,620,000	-30,630,000	-1,990,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	2019 予算	2018 予算	前年差	備考
会員・会友 刊行物の発行	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	3,558,000	3,558,000	0	
		経常増減	-3,558,000	-3,558,000	0	
会員・会友 JCBL ライブラリー	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	5,522,000	5,522,000	0	
		経常増減	-5,522,000	-5,522,000	0	
会員・会友 キャンペーン	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	280,000	280,000	0	
		経常増減	-280,000	-280,000	0	
組織運営 管理部	縮小	経常収益	16,740,000	16,740,000	0	
		経常費用	40,000,000	38,010,000	1,990,000	
		経常増減	-23,260,000	-21,270,000	-1,990,000	